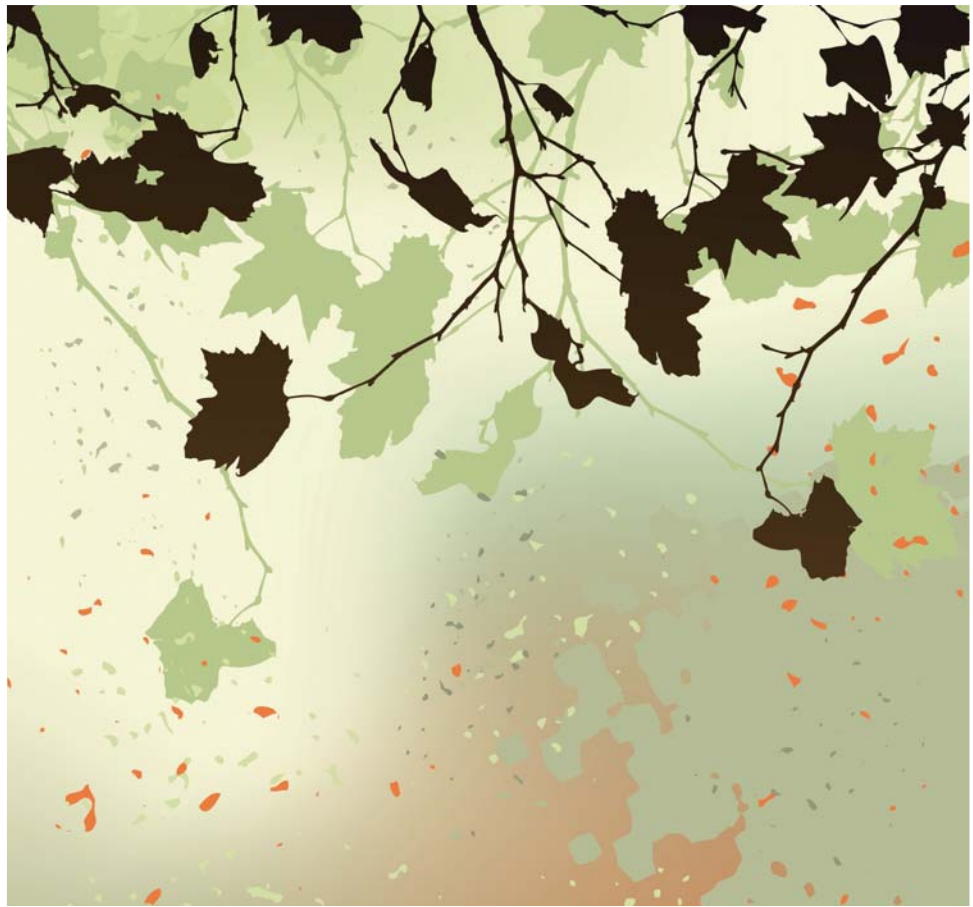


そのままがいいよ





さくちゃんは日常生活で困ることばかり。

雨粒が当たって痛い。

蛍光灯の音がうるさい。

見え方や切り方などの調理法で

料理が食べられなくなる。

みんなが一斉に集まる体育館などは

人の息づかいがうるさいから苦手。

あげればきりがない。

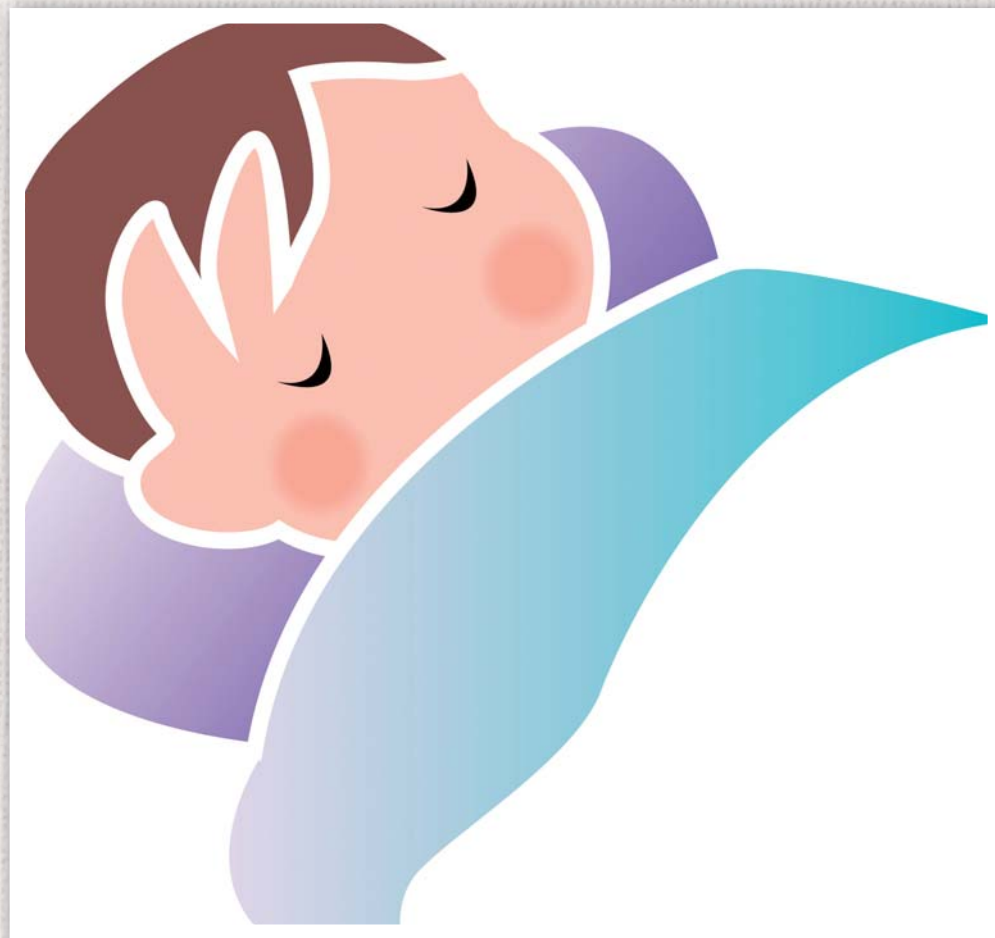
**なぜこんな気持ちになるのが
自分では分からない。
分からないからイライラするし、しんどくなる。
周りの人が普通にしていることが
自分はできないから、
自分がダメな人間だと思ってしまう。
周りから「わがまま」と誤解されることも
たくさんあった。**





**人の顔、表情を認識するのも苦手。
小学生の時は、毎朝服装で見分けたり、
名札などで確認していた。
必死に覚えようとしていたので、
毎日疲れた。
みんなは友達のことを覚えられるのに
自分は覚えられない。
さくちゃんは自分の頑張りが
足りないせいだと思い込んでいた。
“自分だけ”だと分かるまで
とても辛く、苦しい毎日が続いた。**

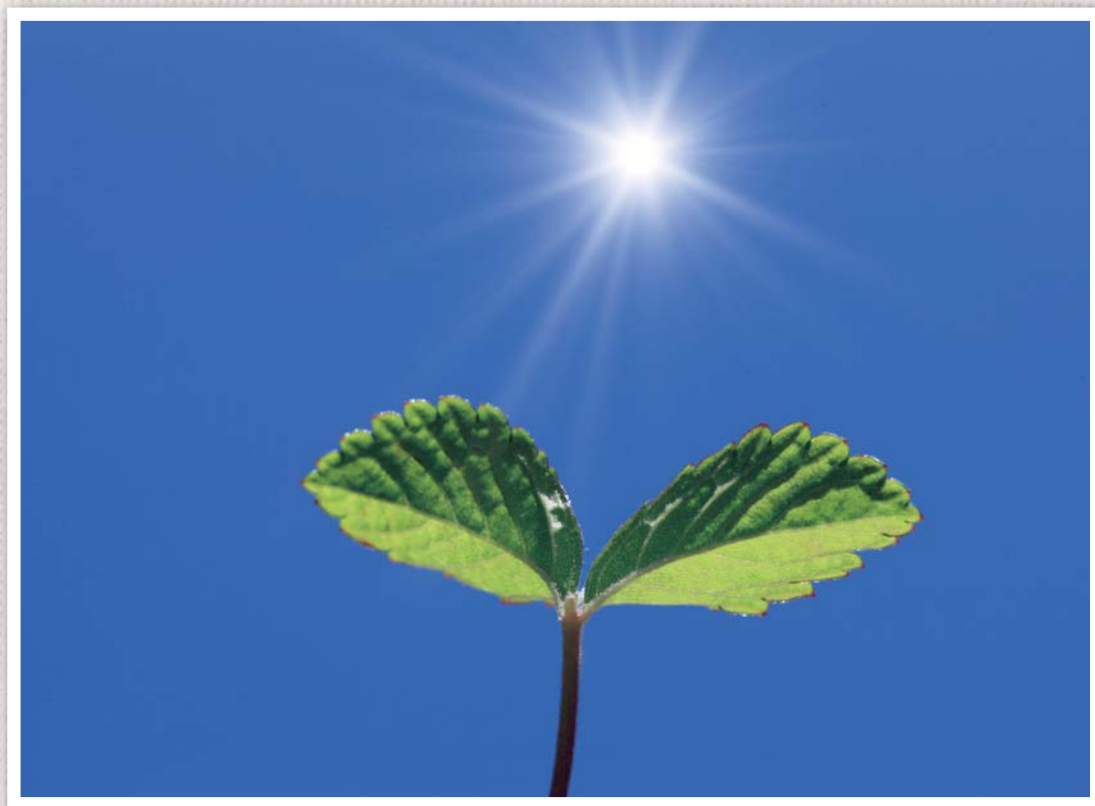
さくちゃんはよく寝る子どもだった。
特に小学校に通うようになると
帰ってきたらすぐに寝て、
そのまま朝を迎えることも。
不思議に思っていたお母さん。
でもある日、気付いた。
毎日アンテナを張るように頑張っていて、
精神的に疲れ、眠ることで
自分を調整しているんだと。
眠ることで体力、心を回復させていたんだと。





**中学生になると
さくちゃんの気持ちは不安定になり、
学校に行くのが難しくなった。
昼夜逆転の生活になり、
睡眠剤や精神安定剤を飲むことも。
今までできていたこともできなくなり、
お母さんが気付いた時には住所、名前も
まともに書けなくなっていた。
「この辛さからどうにかして逃れたい」
さくちゃんもお母さんも同じ思いだった。**

**一緒に頑張り、何とか高校に入学。
高校では辛い時に別室で休ませてもらえ、
安心感もあってか
2年生になると遅刻もなくなり、
3年生になったら
楽しんで通えるようになった。
気持ちに余裕が出てくるとコントロールも
できるようになり、笑顔が増えたさくちゃん。
ある日、こうつぶやいた。**





**「今の自分があるのはお母さんのおかげ。
お母さんや学校の先生、
周りの人がまったく否定しなかったし、
直しなさいとも言わなかった。
そのままがいいよと言ってくれていた。
とても安心しました。
みんなのおかげで
自分を好きでいられました」。**

**さくちゃんはアスペルガー症候群。
中学生の時、お母さんは
「生きていてくれるだけでいい」と
思っていた。**

**高校に通えるようになっても、
「楽しんで通ってくれるだけでいい」と、
それだけしか望んでなかった。
でもさくちゃんは
お母さんの思い以上に頑張り、
自分のやりたいことも見つけた。**





さくちゃんはいま、作業療法士になるための学校に通っています。これからどんな大人になっていくのが、お母さんにとっては楽しみ。他の人が経験できないこともたくさん経験してきました。笑顔のさくちゃんを見ていたら、あの苦しかった時がうそのように思えて、お母さんも自然と笑顔になります。「いつでも、どんなときでも、お母さんはさくちゃんを受け止めるよ」。

「自閉症・発達障がい」について

障がいの困難さも目立つが、優れた能力が発揮されている場合もあり、周りから見てアンバランスな様子が理解されにくい障がいです。養育環境ではなく脳の機能障がいによるもので、どんな能力に障がいがあるか、またどの程度なのかは人によってさまざまです。

★こんな配慮がうれしい！

- ◇障がいのため困難なことを「なぜできないのか」と見るのではなく、どうすると良いかを具体的に示す
- ◇「知らないこと」「初めてのこと」など変化への対応が苦手なので、絵や写真を使ってあらかじめ本人が納得するように見通しを示す

あしがき

「発達障がいは一見して分かる障がいではないので、さまざまな誤解を持たれてしまうことがあるんです」。発達障がいを持つ子どもさんのお母さんが一様に口にした言葉だ。出会ったどのお母さんも笑顔でこれまでを振り返り、時には冗談を言いながら話してくれた方もいた。でもその内容は悩み、苦しみ、辛かったこともある。

発達障がいと向き合い、前向きに生活を送っているからこそ笑顔でいられるんだと思う。以前に比べ、発達障がいという言葉は浸透しているが、まだ理解していない人も多い。良き理解者が増えることが何より支えになることを痛感した。(石)